

令和6年度 ダイバーシティ推進室 経営計画書

職・氏名	経 営 方 針	経 営 資 源			
副市長 三浦 智美	●使命 ダイバーシティ推進室は、市民一人一人が性別、年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、自分らしく暮らせる社会を推進するため、多様性を認め合える「ダイバーシティ社会」の実現を目指します。 ●基本方針 1. 性別、年齢、障がいの有無、国籍などの様々な違いが多様性として尊重されるまちを目指します。 2. 男女共同参画社会の実現を目指します。 3. 人権教育・人権啓発を通じて人権意識を醸成するとともに、人権問題の解決に向け、相談しやすい窓口をつくります。 4. 外国人と日本人がともに住みやすいまちづくりを進めます。	所 管 課	ダイバーシティ推進室		
		人 員	正職員	会計年度 任用職員	合 計
			3人	2人	5人
		一般会計	72,052 千円		
		特別会計	千円		
		計	72,052 千円		
(うち人件費)		(32,798 千円)			

重点項目	内 容	成果目標	進捗状況(3 月末)
1 ダイバーシティに関する職員・市民への意識啓発	・男女共同参画社会を含むダイバーシティ推進体制により、ダイバーシティ関連事業の充実を図ります。	・市内のダイバーシティ推進体制により複数の部署と連携し、事業を推進していきます。 ・ジェンダーに関する市内予算措置や取組状況を把握し、予算の拡充や事業充実を目指します。	・他部署と連携し、パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の行政サービスの拡充などに努めました。11月には消防本部の救急搬送証明書の交付と火災によるり災証明書・り災届出証明書の交付の2つの行政サービスを追加しました。 ・ジェンダーに対する市内予算を確保し、ジェンダーギャップの解消に努めました。 令和6年度実績 1,007,722円 ・10月にジェンダーギャップ解消戦略に取り組んでいる兵庫県豊岡市を視察しました。

重点項目	内容	成果目標	進捗状況(3 月末)
1			・6月の男女共同参画週間に市民図書館でパネル展(R6.6.25～30)を開催するとともに、ダイバーシティに関する市民アンケートを実施しました。
	・ダイバーシティに関する意識啓発を進めます。	・ダイバーシティを推進するための条例を制定し、市民への意識啓発を進めます。 ・ダイバーシティ推進事業所宣言制度を新設し、事業所への意識啓発をします。 ・「ダイバーシティ社会の実現に向けた表現のガイドライン」を活用し、ジェンダー平等やハラスメント等についても啓発します。	・庁内のダイバーシティ推進本部のダイバーシティ推進リーダー、推進担当、瀬戸内市男女共同参画推進審議会委員などの意見を参考に、「瀬戸内市ダイバーシティ社会を推進する条例」を制定しました(令和7年4月1日施行)。 ・ダイバーシティ推進事業所宣言制度の内容について検討しました。 ・「ダイバーシティ社会の実現に向けた表現のガイドライン」を活用した職員向けの研修を3月11日に実施しました。 研修参加者数:31名
	・女性の活躍促進	・市民を対象に講演会をするなど女性活躍に向けた意識の醸成を図ります。	・11月と12月に瀬戸内市の女子野球チーム、瀬戸内ブルーシャインズを講師に招いて、小学生を対象とするおもしろスポーツ教室を行幸小学校と牛窓東小学校で実施しました。 ・1月に女性活躍をテーマに、歴史上活躍した女性を取り上げ講演会を開催し、63名が参加しました。
	・市民の人権問題に対する意識を醸成します。	・人権問題への関心を高めるため、関係機関と連携するとともに、ホームページや市広報紙等も活用し、啓発をします。	・岡山人権啓発活動地域ネットワーク協議会と連携し、今城小学校で4月と11月に「人権の花」運動を、1月に人権スポーツふれあい教室を実施しました。 ・ホームページ等では、人権啓発に関する記事や相談窓口について、随時発信しています。 ・庁内 DV 防止ネットワーク連絡会議を開催(R6.5.31)し、関係部署との情報共有を行うとともに、DV 相談窓口において相談を受け付け、関係部署と連携し対応しました。 相談件数:13件(R6.4.1～R7.3.31) ・11月の岡山県男女共同参画推進月間に DV 防止啓発に関するパネル展(R6.11.1～11)を開催し、相談窓口を周知しました。

重点項目	内容	成果目標	進捗状況(3 月末)
1			・「女性に対する暴力をなくす運動」期間中に、本庁と市民図書館にパープルリボンツリーを設置(R6.11.12～25)し、また市内 3 か所でパープルライトアップ(R6.11.17～18)を実施し、この運動について啓発しました。 ・美和会館の人権講座として福山市ホロコースト記念館へのスタディツアーを実施しました。参加者数:10 名
	・集落支援員の活動やハンセン病問題啓発事業等の活用などにより、ハンセン病問題の啓発事業を進めます。	・ハンセン病問題をテーマにした啓発事業を実施し、市民の関心を高めるとともに知識を深める契機とします。	・6月の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」に合わせて、市民図書館でパネル展(R6.6.7～23)を開催し、約330名の来場がありました。 ・ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会・岡山の会議を長島で開催し、両園関係者、市、県、関係機関等の事業の進捗状況について情報交換を行いました。(R6.4.16、10.22、R7.1.28 計3回) ・小中学生向けのハンセン病問題学習動画「記憶を受けつぐ旅～岡山県瀬戸内市・長島に残るハンセン病の歴史～」を作成し、You Tubeチャンネルに掲載しました。
	・多文化共生事業の推進に努めます。	・外国人相談窓口、多言語翻訳機、出入国在留管理庁通訳支援事業の活用により、在住外国人の生活を支援します。また、窓口の開設について、広く周知を図ります。 ・UNHCRと連携し、映画の上映など、市民の難民への理解を進めます。	・外国人相談窓口のチラシを作成し、市民課での外国人の転入手続きの際に配布しています。また、外国人の雇用に関連した企業・団体を訪問し、外国人相談窓口の周知を行いました。 相談件数:9 件(R6.4.1～R7.3.31) ・10 月にUNHCRの難民映画祭パートナーズ上映会を開催し、61 名が参加しました。
		・外国人への情報発信やコミュニケーションの円滑化を図るため「やさしい日本語講座」を実施し、多文化共生を推進します。 講座回数:年 2 回 研修参加者数:1 回 15 人	・6月20日「世界難民の日」に合わせて、市内3か所でブルーライトアップを実施し、難民問題への関心を高めました。 ・瀬戸内市国際交流推進協議会の事務局員(多文化共生マネージャー)を講師に、「やさしい日本語講座」を9月17日(一般市民対象)、9月18日と19日(職員対象)の3回実施しました。 研修参加者数:9月17日 15名、9月18日 11名、9月19日 8名